

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第9回 有効高さ評価モデル分科会 (A1SC9) 議事録(案)

1.日時 2010年5月11日(火) 15:00~17:00

2.場所 (財)電力中央研究所 大手町ビル7階 第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 市川(副主査), 込山(幹事), 安達, 近藤, 本間, 山澤, 永井,
館野, 大場, 河合, 福田, 筑紫, 佐田, 沼田, 安田 (16名)

(代理委員) 桜井(鈴木代理)

(欠席委員) なし

(常時参加者) 日高

(傍聴者) 樋口, 上杉, 菊間 (3名)

(事務局) 岡村

4.配布資料

A1SC9-1 前回議事録(案)

A1SC9-2 有効高さ評価モデル実施基準 コメント集約表

A1SC9-3 数値モデル計算実施基準(案)

5.議事録

(1)出席委員の確認

込山幹事により 17 名の委員中、17 名の委員の出席があり、定足数(12 名以上)を満足していることが確認された。

(2)人事案件

原子力安全委員会事務局の日高氏の常時参加が満場一致で承認された。

(3)前回議事録の確認

込山幹事より A1SC9-1 に基づき第 8 回有効高さ評価モデル分科会議事録(案)が説明され、内容が了承された。

(4)実施基準原案（附属書及び解説）の検討

込山幹事、佐田委員より A1SC9-2 及び A1SC9-3 に基づき、実施基準原案に対する各委員から寄せられたコメントについて説明があり、コメントの内容について検討を行った。主な議論は以下のとおり。

- ・ P.2 下 12 他：検証(Verification)、妥当性確認(Validation)の英語表記は定義の項のみとし、他は日本語表記のみとする。
- ・ P.34 上 1：附属書 E のタイトルを「建屋及び地形のモデル化について」→「敷地内における計算対象とする構造物について」に変更する。
- ・ P.34 上 5：E.1 のタイトルを「敷地内における構造物の再現方法について」→「敷地内における計算対象とする構造物について」に変更する。
- ・ P.34 上 6：“・・・再現する建屋は、・・・10m以上の構造物を再現する” → “・・・再現する構造物は、・・・10m以上の構造物とする”に変更する。
- ・ P.34 上 12：数値モデルの評価結果（排気筒の有効高さ）がほぼ風洞実験と一致することを示す図を追加する。
- ・ P.34 上 16：“・・・風洞実験結果に一致している” → “・・・風洞実験結果にほぼ一致している”に変更する。
- ・ P.39 F.2：計算領域の入口の乱流強度を増加させた平地計算に関する記述を明確にすること。
- ・ 本文、附属書、解説：図の参照の仕方を統一する。
- ・ 本文、附属書、解説：参考文献の発行年表記を西暦に統一する。
- ・ 本文、附属書、解説：“本標準”，“本基準”の表記を統一する。

(6)今後の予定

- ・ 次回第 10 回分科会を 7 月 13 日(火)15 時～開催することとした。

以上